



## New Draft EU Risk Assessment Report (RAR) on Antimony Trioxide (DAT) expected in Nov '05

EU-RARの第二次草案は本年11月公表予定

2004年7月 第一次草案公表  
2004年9月 産業界及び加盟国からの意見提出  
2005年3月 TC NES Iで遺伝毒性を論議  
2005年11月 第二次草案公表予定  
2005年12月 TC NES IVで論議予定  
2006年12月 RAR完了?

## ATOS: Antimony Trioxide Stakeholders

(三酸化アンチモン関係業界協会)

昨年Sbの生産者及びユーザーはDATのEU-RA作業に必要な科学情報を結集すべく、ATOSを結成した。特にPET業界とPlastics Europeの貢献が大きい。

昨年ATOSはRAR第一次草案に対する意見集約を行った。RARにおける職業上の暴露、環境毒性、ヒトの健康に関するデータギャップを補填し、ないしは論点を明確にするため、いくつかの研究を実施中ないし実施する予定。研究の殆どは2005年に終了予定。これまでのすべての研究で、DATがライフサイクルを通じて安全に生産かつ使用されうることが確認されている。

## First Reaction of Member States

産業界はRAR第一次草案における遺伝毒性に関する疑問を解決するに際しては、段階的なアプローチを採用するよう提案している。ベルギー、オランダ、スペイン、イタリア、イギリス、ハンガリーは産業界の提案を支持している。産業界はまた、最初に毒性速度研究を実施するよう提案している。それにより、科学的な基礎の上でin-vivoでの別の遺伝毒性研究やその他の研究の将来設計や実施が可能になる。段階的アプローチにより研究の枠組を改善することが可能になる一方で、毒性速度研究は暴露シナリオに内在する本質的な危険性を段階的アプローチに提供するという利点を持つ。その実行可能性研究の結果は2005年6月初めまでに判明する予定。

## MERAG: Metal Environmental Risk Assessment Guidance Document

MERAG (金属環境リスクアセスメント・ガイダンス)

金属やその他の無機化合物は、有機化学物質について化学リスクアセスメント・テクニカル・ガイダンスが引用している特性とは非常に異なる特性を有する可能性がある。ECの化学物質登録評価認可規制 (REACH) 規則案が作成されて以来、金属に関する統一的な評価や基準を作成する必要性が高まっている。

ECによれば、MERAG (金属環境リスクアセスメント・ガイダンス) プロジェクトはEUやOECDの金属に関する既存のガイダンスを進化、再構築したものと位置づけられる。MERAGの目的は国際的な規制当局や地域の規制当局に、金属や無機化合物に関する最も進歩的な環境リスクアセスメント概念に基づく科学的かつ規制的なガイダンスを提供することにある。それは化学物質管理プログラムや環境品質基準設定 (土壌、水、沈殿物...) に使用する目的で、環境リスクアセスメント手法、概念、方法論における既存かつ最新の成果が総合されたものになる。

MERAGプロジェクトは2003年12月、DEFRA (英国環境食糧農務省) の後援の下、Eurometaux (欧州非鉄金属協会)、ICMM (国際金属鉱業評議会) により開始された。2004年には論点メモや所謂ファクトシート案が作成され、利害関係者や審査パネルにより検証された。当該プロジェクトは今や実行段階にあり、その一環としてMERAGの最終草案が作成されることになる。実行段階は2005年5月10-11日、ロンドンで開催された総合科学公開ワークショップをもって開始された。学会、規制担当科学者、産業界代表などが参加したワークショップでは、ファクトシートが批判的に検証され、科学的ないし技術的ガイダンスを改良する潜在的な必要性が示唆された。最終TGDのような金属に関する環境リスクアセスメントのガイダンス文書が2005年末までに用意されることになる。

## 国際酸化アンチモン協会 (IAOIA) の使命

国際酸化アンチモン協会の使命は、アンチモン物質及びその用途における環境、健康、安全規制問題について、世界中のアンチモン生産者、消費者、その他関係者の共通の利益に貢献することである。

IAOIAの活動は会員により決定され、アンチモン物質の安全性及び有用性に関する研究の実施、情報の普及、政府当局に提出する化学情報の作成などからなる。

1<sup>st</sup> International Workshop on  
**Antimony in the Environment**  
Heidelberg, May 16-19, 2005

**環境中のSb**

2005年5月16-19日、ハイデルベルグ

ハイデルベルグ大学環境地質化学研究所は環境中のSbを研究するため、科学者や研究グループなどとワークショップを開催した。ワークショップの目的は環境中のSbについて最新の情報を紹介し、最新の知見を討議することにあつた。

当初は小規模で非公式な想定であつたワークショップには世界中から60名以上が参加（プレゼンテーション32件、ポスター16件）し、非常に盛会であつた。異なる環境（土壌、沈殿物、水、大気）におけるSbの存在と変化、大気放出と吸着、Sb化合物への職業上の暴露、Sbの分析化学などについてのプレゼンテーションが行われた。

**EU Risk Assessment Timeline for 2005**

**EU RA 2005年今後の予定**

9月15日 第二次草案に盛り込む新しいデータの提出期限  
11月 Kemiが第二次草案公表  
12月 EUメンバー国によるTC-NES会議での草案審議

**Upcoming Industry Events**

**産業界の予定**

6月3日 ATOS運営グループ会議 ブリュッセル  
9月7-9日 FRPM'05 ベルリン  
10月11-12日 IAIOA会議 ブリュッセル  
12月12-15日 ポリエステル&PETチェーン第10回世界会議  
アムステルダム

**The IAIOA Members**

**In the USA / Europe organization:**

Campine NV  
GLCC Laurel, LLC  
Penox SA  
Produits Chimiques de Lucette  
Sica

**日本鉱業協会Sb環境安全対策協議会メンバー：**

日本精鉱株式会社  
山中産業株式会社  
東湖産業株式会社  
日産化学工業株式会社

**賛助会員：**

株式会社 鈴裕化学  
第一エフアール株式会社

**The IAIOA Associate Members**

Albemarle Corporation  
Dead Sea Bromine Group (DSBG)  
Durr Marketing Associates, Inc.

Goldmann GmbH & Co  
Helm AG

これらの企業は、アンチモン製品市場を守るために、政府機関への適切な対応及び信頼出来るデータの開発や提供などの活動に奮闘しています。活動費用や人的貢献はこれらの企業が分担しています。貴社は、これらの企業をビジネス相手として選択することによって、我々の業界を支援することになります。貴社がアンチモン製品の生産者、流通業者、消費者であり、こうした取り組みに貢献する意志がおりなら、IAIOA、日本鉱業協会または会員企業にコンタクトして頂きたい。

**IAIOA 組織**

役 職	氏 名	e-mail アドレス	電話番号
議 長	Dave Sanders	<a href="mailto:dsanders@glcc.com">dsanders@glcc.com</a>	+ 1 765/427 1859
副 議 長	Geert Krekel	<a href="mailto:geert.krekel@campine.be">geert.krekel@campine.be</a>	+ 32 14 601 507
経 理	Tom Bellanti	<a href="mailto:TBellant@glcc.com">TBellant@glcc.com</a>	+ 1 281/461 6588
事 務 局 長	Karine Van de Velde	<a href="mailto:Karine.vandevelde@campine.be">Karine.vandevelde@campine.be</a>	+ 32 14 601 578
毒 性 学 者	Tessa Serex	<a href="mailto:tserex@glcc.com">tserex@glcc.com</a>	+ 1 765/497 6637
日本Sb環境安全対策協議会議長	町田博治	<a href="mailto:machida@nihonseiko.co.jp">machida@nihonseiko.co.jp</a>	+ 81 3 3235 0031